

妊娠から分娩・乳幼児期にいたる疾患の追跡的データに基づく母子健康管理システムの研究

神奈川県立栄養短大

須川

豊

A 妊婦の条件と出生児の状態との関連研究

A-1. 薬剤（5桁コード）別にみた先天異常群の分布

横浜市立大学医学部小児科助教授

植地正文

(1) 薬剤別先天異常区分別集計（延数）

薬剤と先天異常については昨年度報告し、統計的に有意な薬剤は見い出せなかったが、 $3 \geq z \geq 2$ で疑いのもたれた薬剤は若干存在した。

これら薬剤について分析を試みた。まず先天異常区分別にみたのが表1である。

(2) 薬剤別先天異常群の分布

先天異常区分ごとの疾病分布を各薬剤ごとにまとめ、表にした。

以上の結果から213IDでは「そけいヘルニア」「斜頸」が、213IHでは「そけいヘルニア」「斜頸」「色素性母斑」「先天性股関節脱臼」が、322CAでは「そけいヘルニア」「先天性股関節脱臼」が目立って多い。しかしながら、こ

れら疾病は診断上問題のあることが多く、それだけで薬剤と先天異常との関係をむすびつけることはできない。一つだけ色素性母斑と利尿剤との関係でやや関連がありそうな数を得たが、今後、動物実験などを含めた検討が必要であろう。

女性ホルモン剤と先天異常との関係は、1973年Levyらにより指摘されてから注目されてきているが、今日では、両者の因果関係はないとされている。

女性ホルモンと先天異常に関する検討は、昨年度行ない、報告書に記してあるので、今回は省略した。

表1. 薬剤別、先天異常区分別集計

異常区分	使 用 薬 剤						
	213ID	213IH	214JI	233JD	322CA	322CK	399IA
奇形メジャー	69	120	26	25	34	69	23
奇形マイナー	3	12	1	0	1	2	0
悪性腫瘍	2	2	1	0	0	0	0
機能異常	1	2	0	1	2	3	0
症候群	0	1	0	0	1	1	0

表2-1 213ID (利尿剤-クロレキソロン)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数	奇形(マイナー)	数
血管腫	2	口唇口蓋裂	1	副耳	1
内斜視	2	胃破裂	1	先天性耳瘻	2
そけいヘルニア	11	内反足	2	悪性腫瘍	数
白斑	1	多指症	2	横紋筋肉腫	1
水頭症	1	合指症	1	ウイルムス腫瘍	1
耳介奇形	1	先天股脱	8	機能異常	数
ファロー四徴症	1	ロート胸	1	精神発達遅滞	1
心室中隔欠損症	1	斜頸	29		
口唇裂	1	色素性母斑	3		

表2-2 213IH (利尿剤-フロセミド)

奇形(メジャー)	数	奇形(マイナー)	数
血管腫	5	副耳	2
内斜視	3	先天性耳瘻	9
そけいヘルニア	24	指の屈折	1
白斑	1	悪性腫瘍	数
小頭症	1	横紋筋肉腫	1
小耳	1	ウイルムス腫瘍	1
心室中隔欠損症	3	機能異常	数
口唇・口蓋裂	1	精神発達遅滞	2
メツケル憩室	1	症候群	数
停留睾丸	3	ダウン症候群	1
内反足	1		
多指症	1		
欠指症	1		
先天股脱	13		
ロート胸	7		
斜頸	35		
色素性母斑	18		
内臓奇形	1		

表2-3 214JI (血圧降下剤-配合剤)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数
血管腫	2	ロート胸	2
そけいヘルニア	6	斜頸	9
口唇裂	1	色素性母斑	2
尿道下裂	1	奇形(マイナー)	数
多指症	1	先天性耳瘻	1
先天股脱	2	悪性腫瘍	数
		ウイルムス腫瘍	1

表2-4 233JD (健胃消化剤)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数
血管腫	1	先天股脱	4
内斜視	1	ロート胸	2
そけいヘルニア	2	斜頸	10
白斑	1	色素性母斑	3
口蓋裂	1	機能異常	数
		精神発達遅滞	1

表 2-5 322CA(アミノ酢酸硫酸鉄)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数
内 斜 視	3	斜 頸	3
そけいヘルニア	9	色素性母斑	1
二分脊椎	1	奇形(マイナー)	数
耳介奇形	1	巨大舌	1
口蓋裂	1	機能異常	数
多指症	1	精神発達遅滞	2
合指症	1	症候群	数
先天股脱	11	ダウン症候群	1
ロート胸	2		

表 2-6 322CK(硫酸鉄)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数
血管腫	4	色素性母斑	2
内 斜 視	2	奇形(マイナー)	数
そけいヘルニア	19	副 耳	1
横隔膜ヘルニア	1	指の變形	1
水頭症	1	機能異常	数
心室中隔欠損症	1	精神発達遅滞	1
心房中隔欠損症	1	難 聴	1
口蓋裂	1	噴門弛緩症	1
停留臍丸	4	症候群	数
内 反 足	2	ダウン症候群	1
先天股脱	5		
ロート胸	4		
斜 頸	22		

表 2-7 399IA(代謝性医薬品-グルタチオン)

奇形(メジャー)	数	奇形(メジャー)	数
血管腫	2	ロート胸	1
そけいヘルニア	5	斜 頸	4
水頭症	1	色素性母斑	6
先天股脱	4		

A-2. 消化器系の先天異常の母体条件と胎児側要因(その1)

北里研究所附属病院産婦人科

小林 英 郎

1. 発生頻度(表1)

表1に、当調査に報告された主な消化器系の先天異常の件数、頻度、文献で調べられた頻度を載せた。おおむね適当な頻度のようにあるが、この中で、口唇口蓋裂という頻度は探し得なかった。そこで、この件数を加えて頻度を出しなおしてみると、口唇裂は878例の出産に1件、口蓋裂は746例に1件となり、大体文献と合致する。この全対象児数は14,920件である。

2. 父・母の各種の状況

(1) 主として遺伝的状況

まず年齢分布では、特に高年齢化傾向はなく、血縁関係も対象群と変らなかった。

身長・体重は、父・母とも多少小さめであったが、明らかな違いとは言えない。

血液型では、父・母とも、A型が多くB型が少ない。時に父の場合、A型47.3%に対し、B型5.6%とアンバランスであった。

(2) その他の状況

初潮年齢に差はないが、月経痛が、対照群39.3%に対し、奇形群51.2%と多かった。これは奇形群に初産が多かった(56.3%)ためかもしれない。妊娠前1年間のレントゲン撮影では、奇形群がむしろ少なかった。

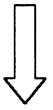
3. 妊娠中の母の生活状況

職業を持っていたものが奇形群に多く、幽門狭窄では7.5%であった。食事については、口唇裂と口蓋裂について文献上記載をみるが、当調査の蛋白スコアでは、口蓋裂で低スコアのもものが2件みられた。飲酒・喫煙は、妊娠前、妊娠後、とも



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



以上の結果から 2131D では「そけいヘルニア」「斜頸」が,2131H では「そけいヘルニア」「斜頸」「色素性母斑」「先天性股関節脱臼」が,322CA では「そけいヘルニア」「先天性股関節脱臼」が目立って多い。しかしながら,これら疾病は診断上問題のあることが多く,それだけで薬剤と先天異常との関係をむすびつけることはできない。一つだけ色素性母斑と利尿剤との関係でやや関連がありそうな数を得たが,今後,動物実験などを含めた検討が必要であろう。

女性ホルモン剤と先天異常との関係は,1973年 Levyらにより指摘されてから注目されてきているが,今日では,両者の因果関係はないとされている。

女性ホルモンと先天異常に関する検討は,昨年度行ない,報告書に記してあるので,今回は省略した。